東京言語研究所
集中講義のご案内

東京言語研究所では、言語学の研究者の方々ならびに言語学に興味をお持ちの方々を対象に〔理論言語学講座〕をはじめとして様々な講座を開設しております。＜集中講義＞は、多様な研究領域に関して、ひとりでも多くの方々に知っていただくため、年間 2 回の集中講義を実施しています。ぜひご参加ください。

＜演題＞モダリティ・ムード概念の発生と継承

＜講師＞ ナロック ハイコ 氏 （東北大学教授）

＜日時＞ 2015 年 9 月 12 日(土) 13:00～18:20（90分講義×3コマ）

13 日(日) 10:30～16:20（90分講義×3コマ）

＜会場＞ 東京言語研究所 （新宿区西新宿 6-24-1 西新宿三井ビル13階）

＜参加費＞ 一般 12,000 円

学生・大学院生・2015 年度理論言語学講座受講生 9,000 円

＜申込み＞ ホームページ申込みフォームまたは FAX にて下記をご連絡下さい。（定数:50名）

※ 申込み受付期間は 7 月 31 日(金)～9 月 10 日(木)までです。

①集中講義受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号

⑦E メールアドレス ⑧区分 （2015 年度理論言語学講座受講生・一般・学生）

⑨所属区分 （大学生・大学院生・教員・会社員・その他）

（上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません）

講師紹介： 1997年ドイツ・ボーフム大学東洋学部で博士号取得（哲学博士・論文）。2002年東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士号取得（学術博士・課程）。北海道大学助教授を経て，現在，東北大学教授。専門分野は、言語学、日本語学。主な著書・論文に *Modality, Subjectivity and Semantic Change – A Cross-Linguistic Perspective* (Oxford University Press, 2012), *Modality in Japanese and the Layered Structure of Clause* (J. Benjamins, 2009), *The Oxford Handbook of Grammaticalization* (Oxford University Press, 2011; B. Heine と共編), *The Oxford Handbook of Linguistic Analysis (Oxford University Press*, 2010; B. Heine と共編), *Perspectives on Semantic Roles* (J. Benjamins, 2014; S. Luraghi と共編) など。

○ 問合せ先
公益財団法人ラボ国際交流センター 東京言語研究所
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6－24－1 西新宿三井ビル16階
TEL:03－5324－3420 FAX:03－5324－3427
E-mail:info@tokyo-gengo.gr.jp ホームページ:http://www.tokyo-gengo.gr.jp/

講義概要

モダリティは現代日本語学において最も注目されている文法カテゴリーであり、海外の言語学においても研究が盛んに行われている。しかし、同じ「モダリティ」と言っても、その捉え方は様々で、研究者の間で必ずしも意見の一致を見てはいない。というのは、テンスやアスペクトのような文法カテゴリーでは、研究者によってその理解はさほど異ならないが、モダリティの場合には、学者の間で捉え方の違いが顕著であり、様々な文法カテゴリーの中で定義に最もバラつきがあるといってもよい。それどころか文法カテゴリーとして捉えるべきかどうか、また捉えるべきとしてもどのようなレベルで認識すべきかについてさえ見解が一致していない。

本講義の前半では、まず西洋におけるムードとモダリティの概念の源流について紹介する。ムードもモダリティもギリシャ哲学にその由来を持ち、前者は最初から言語現象に使用されたのに対し、後者は長い間様相論理学の概念であった。ムードは発話、あるいは現実との関わりを表すギリシャ語あるいはラテン語の動詞の形態変化、モダリティは命題の真偽が必然的であるか、それとも可能であるか、偶然であるかを指していた。19世紀には、この概念が独仏の言語学者によって言語学に取り込まれ始めたが、広く普及したのは、1970年代からである。それまでは、「ムード」の概念のほうが一般的であった。また、日本では、山田孝雄が提案した陳述概念が時枝誠記によって話し手の主観に基づく意味で大きく捉えなおされて、そこから生じた主観性論が現代的なモダリティ論の源流となった。本講義ではそのように生じた様々なモダリティ概念を批判的に論じる。

さらに、本講義の後半では、記述面を重視し、現代の一般言語学、あるいは日本語のモダリティ研究におけるいくつかの問題をとりあげる。モダリティの分類と、モダリティ及びエヴィデンシャリティとモダリティとテンス・アスペクトとの関係の問題に簡単に触れてから、主にモダリティ形式の多義性の発生の問題に時間を割く予定である。

時間割　＊変更の可能性がございます

1　モダリティ、ムード概念の歴史
2　とらえ方の様々
3　モダリティと主観性
4　モダリティの分類、モダリティと隣接カテゴリーとの関係
5　モダリティの多義性の発生Ⅰ
6　モダリティの多義性の発生Ⅱ

12日（土）		13日（日）	
13：00	開講式	10：30	講義―4
13：10	講義―1	12：00	講義―4終了　休憩　昼食
14：40	講義―1終了　休憩	13：00	講義―5
15：00	講義―2	14：30	講義―5終了　休憩
16：30	講義―2終了　休憩	14：50	講義―6
16：50	講義―3	16：20	講義―6終了
18：20	講義―3終了		